

Project for Establishing University
Network for Globalization
- Global 30 -

Selected University's Initiatives in 2012

【構想の概要】

世界リーディング・ユニバーシティにふさわしい、質の高い国際的教育環境のもとで国際社会における指導的人材の育成・輩出を目指す。優秀な外国人留学生に対する総長特別奨学生制度を大学院生及び学部生対象に創設し、学生寄宿舎University Houseなどの留学生支援を充実するとともに、日本人学生の海外派遣にも重点を置く。グローバルネットワークを活用した戦略的国際化を進め、特にロシアとの間では、海外大学共同事務所を通じた活動を推進する。

■英語コースの開設

英語による授業のみで学位を取得できる英語コースを開設しています。

○学部英語コースは、自然科学系の理学部、工学部、農学部にて3コース

○大学院英語コースは、人文科学系、自然科学系を合わせて13コース

■国際教育院の設置

グローバル30の企画、運営を行う「国際教育院」を設置し、同院に学部英語コースの教育を担当する外国人教員を配置し、毎週開催する教員ミーティングを通じて教育方法の改善に努めています。

また、全学的なグローバル30運営会議、グローバル30実施委員会により、教育、運営の見直しを常に行うとともに、グローバル30推進室を置き、教務、広報等の事務の強化を図っています。

■留学生支援の充実

○学部英語コースの入学検定料の無料化を実施しました。

○「総長特別奨学生制度」による奨学金の給付を行っています。

奨学金：入学料と授業料に相当する額

奨学生：学部留学生毎年30人、大学院留学生毎年20人採用

○ユニバーシティハウスの優先入居を実施しています。

留学生専用の国際交流会館、日本人学生との共住宿舎ユニバーシティハウス三条、ユニバーシティハウス片平、ユニバーシティハウス三条Ⅱと、環境に恵まれた宿舍を準備しています。



■短期受入プログラムの拡充

より多くの留学生を受け入れるため、学術交流協定を締結している大学を中心に、短期受入プログラムの多様化と拡充を図っています。グローバル30スタート後、英語による受入れとして、人文科学系学生を対象とする短期受入プログラム(IPLA)、サマープログラム(TASP)、工学系大学院生対象のサマープログラム(TESP)を実施し、更に、学術交流協定校から要望のある日本語によるサマープログラム(TUJP)も開始します。

■日本人学生の海外派遣の増加

学術交流協定を締結している大学を中心に積極的に派遣交渉を行うとともに、本学学生への広報、支援強化を図ることによって、英語能力高度化プログラム、サマープログラムへの派遣数が増加しています。

第1回日露医学フォーラム(モスクワ大学)



■積極的な広報活動

○海外東北大学デイを開催

本学の教育活動・研究成果等を紹介し、多くの優れた留学生・研究者の受入れを促進するため、中国、インドネシアにおいて東北大学デイを開催しました。今後更に拡大する予定です。

○海外日本留学説明会・高校訪問

海外留学フェアに積極的に参加するとともに、海外の高等学校を訪問し、研究中心大学としての本学の歴史、国際学士コースの紹介をしています。

○G30FGLプログラムウェブサイトの強化

ホームページでの英語による紹介・説明に加え、国内外からの要望に応じて、新たに日本語による紹介・説明も開始しました。

○シンポジウムの開催

グローバル30では、「留学生と日本人が共に学ぶ場を作る」、「東日本大震災から学ぶ国際連携」、「グローバル人材育成と国際共修」などのシンポジウムによる成果発表を実施しています。

■危機管理への対応

東日本大震災を経験した大学として、留学生を対象とした大規模な「東北大学留学生学生調査」を実施、報告書を作成しました。その結果を広く公開するとともに、今後の留学生の受入れや支援に役立てることにしています。

■ロシア海外大学共同利用事務所を通じた活動

本学とロシアの教育・研究交流を深めるため、モスクワ大学内に「ロシア海外大学共同利用事務所」を開設しています。同事務所には専任職員を配置し、日露学長会議、留学フェア、他大学の活動等の拠点として活用し、日露大学間交流に資する諸事業の企画・実施等を推進しています。平成24年度には、日露合同説明会(モスクワ・ノボシビルスク・ウラジオストク)及び第1回日露医学フォーラム(モスクワ大学)を開催しました。

グローバル30 筑波大学の取組

【構想の概要】

本学は、建学の理念である「開かれた大学」として、世界の人々と協働できるグローバル人材の育成を目指して、21世紀における教育・研究の世界的教育研究拠点の構築を目指している。グローバル30の取り組みにおいては、留学生数及び海外派遣日本人学生の飛躍的な増加を目指す。本構想は、学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感する環境が具現化出来る「国際性の日常化」の契機であると確信している。

□ネットワーク形成

東北大学、名古屋大学とのパイロットネットワーク、G30関東・甲信越大学間コンソーシアム会議、日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)を展開し、国際化に係る本学の資源(短期教育プログラム、日本語教育システム等)の共有化の実現に努めた。

□留学生受入れの新しい支援体制

○国際化推進体制整備

平成21年度に学長の下に設置した「国際化推進委員会」及び「国際戦略室」を見直し、国際ネットワーク化推進体制を整備した。平成22年度に学群及び大学院英語プログラムを新設した。平成24年度は国際戦略室にて「筑波大学国際化戦略基本方針」を策定するとともに、「国際性の日常化検討委員会」を組織し、学内の国際化について具体的な方針を提言した。

○経済的支援の充実

本学独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」を拡充し、海外派遣日本人学生・受入留学生へ支給した。さらに、G30学群英語プログラムに入学した優秀な留学生には、入学金及び授業料の免除を制度化している。

○学生宿舎の整備

留学生等の住環境の整備のため、平成21年度から5年間計画で全60棟3,927室のうち26棟1,588室の改修を計画した。平成24年度末までに22棟1,376室の改修が完了する。

○留学生相談業務の充実

留学生数の増加への対応、及び日本語を解さない留学生のために、カウンセリング担当教員1名を保健管理センターに配置した。また、英語プログラム全在籍者を対象に、教育面及び学生生活に関するアンケートを実施し、現況把握を行った。

○留学生のためのキャリア・就職支援

留学生のためのキャリア支援・就職支援プログラムの構築のため、キャリア支援室に留学生WGを設置し、留学生のためのキャリア支援・就職支援プログラム検討を行った。そのため①G30学生への進路に関するニーズ調査を行い、結果を各取組組織へ公開、②国内企業約5000社にG30学生の採用に関するアンケートを実施、③留学生の就職支援のための就職支援講座(8回)、フォローアップ講座(8回)、学内企業説明会(14社)を実施した。

□開講している英語プログラム

○学群英語プログラム及び大学院英語プログラム

学群英語プログラムとして「生命環境学際プログラム」「社会国際学教育プログラム」「国際医療科学人養成プログラム」の3プログラムを新設。平成25年度現在、学士課程3・修士課程18・博士課程6、合計27プログラムが開講されている。

○教育の質の保証

グローバルレベルの教育の質の保証を達成するため、外国人教員の参画のもとにカリキュラム、履修基準、授業評価法などを制度化し、平成25年度入学者からはGPAによる成績評価制度を導入した。

□留学生獲得の方策

○大学独自の留学説明会の開催や海外高校訪問、及び海外で開催される日本留学説明会等に積極的に参加した(21カ国・地域)。これらの活動により、G30学群英語プログラムの入学者数は59名となった(平成23年度は41名)。

□海外大学共同利用事務所(BUTUJ)の活動

- 平成24年12月、日本アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)準備会議を開催
- 平成25年5-6月、第5回アフリカ開発会議(TICADV)にJAAN構成大学と共同でブース出展
- 平成25年10月、第3回日本・北アフリカ学長会議をモロッコにて開催予定
- 全国の大学の参加による日本留学説明会の開催;平成24年11月アルジェリア、平成25年10月モロッコ(予定)



<留学生向け就職講座の実施>

(年度)	22	23	24
受入外国人留学生数 (各年度12月1日現在)	1,944	1,849	1,887
海外派遣 日本人学生数	291	459	504
交流協定締結数 (()内は国・地域数。 各年度3月1日現在の数)	226 (54)	245 (59)	223 (55)

<過去3年間の国際交流実績>



<日本留学説明会の開催
(平成24年11月、アルジェリア・オラン)>

【構想の概要】

東京大学憲章、東京大学の行動シナリオ等に基づき、グローバルキャンパスを形成し、世界の学術のトップを目指す教育研究のプラットフォームとして国際的存在感を一層高めるべく、留学生受入のための環境整備、英語による授業のみで学位を取得できるコースの設置等を推進し、大学全体としてより均整のとれた国際化の実現を目指す。

■ 学部英語コース(PEAK)の開講

○ 学部英語コースの開講

平成24年10月、学内初の学部英語コースであるPEAK(Programs in English at Komaba)が開講。PEAKは国際日本研究コースと国際環境学コースの2コースで構成されており、11ヶ国出身の27名が一期生として学んでいる。<http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/index.html>



〈学部英語コース一期生〉

○ 受入れ体制の整備

PEAK開講に伴い、4年間にわたり入学料と授業料相当額を支給する新たな奨学金制度を創設。また、PEAK生全員には学内宿舎の入寮を確保するなど、受入れ体制の強化が図られた。生活面でも、PEAK生の生活をサポートする”PEAK Friends”として多数の日本人学生が登録しており、日本人学生と留学生の交流が促進されている。

■ 留学生受入れ体制の充実

○ 英語コースの開講

平成24年度、新たに8コースが開講しており、英語で学位取得可能なプログラムが38コースまで増加。英語による授業科目数も飛躍的に増加している。平成24年10月現在、大学院における授業数は547、学部でも191まで増えており、合計738の授業が英語で行われている。英語コースの拡充に伴い、外国人留学生数も順調に増えている。

【外国人留学生数の推移】 H20年度:2,561名、H21年度:2,785名、H22年度:3,121名、H23年度:3,079名、H24年度:3,090名（各年度11月1日現在）

○ 留学生受入システムの構築

出願から審査、通知、来日までの手続きをWebで行う留学生受入システム(T-cens)を構築。他大学での利用を想定した汎用版を構築し、利便性向上に向けた取組みの展開を図っている。

○ 留学生向け就職支援

日本企業の参加による外国人留学生向けジョブ・フェアを開催。また、特に留学生の多い博士課程(ポスドクを含む)を対象とした就職説明会や就職活動セミナーを開催して、日本における就職を支援している。

■ 異文化交流の促進

○ 日本人との交流機会

留学生が日本人と交流する機会を増やして、異文化交流を推進している。留学生と日本語話者が一対一で交流するFACEプログラムや、留学生と日本人学生の交流の場であるインターナショナルフライデーラウンジを設けており、留学生にも好評である。



〈インド・バンガロールでの日本留学説明会〉

■ 海外大学共同利用事務所の活動

○ 日本留学説明会の開催

平成24年9月、インド・バンガロールで第一回日本留学説明会を開催。バンガロールおよび周辺の高校生・大学生を中心に300名を超える来場者があった。教育内容や入試方法、留学生支援に関する質問が多く寄せられるなど、日本留学への関心の高さがうかがわれた。また、茶道体験など日本文化を知ってもらう貴重な機会となった。

○ インド有力高校校長を招聘

平成25年2月には、初の試みとして、海外留学に熱心なインド国内の有力高校および教育機関から校長を招聘した。留学先としての日本の魅力と日本の科学技術への理解を深めてもらうため、本学の教育・研究の紹介、G30大学への訪問・取組紹介、日本企業の訪問、日本留学の魅力テーマとした日印ネットワーキングシンポジウムの開催など、留学先としての日本を印象づける取組みが行われた。



〈インド有力高校からの校長招聘〉

【構想の概要】

これまで実施してきた質の高い学部・大学院教育を留学生にもより広く提供し、日本人と留学生が共に学ぶ新たな環境を構築し、「世界のNagoya University」への転換を目指す。ウズベキスタン、ベトナム、米国、中国、モンゴル、カンボジア等の海外拠点や国際的な大学連携組織との協力による学生募集活動を展開するとともに、キャリア・デベロップメントオフィスを設置し、国内企業等への就職を希望する留学生に対する支援を充実させる。

■ 英語授業で学位取得できるプログラムの実施

○国際プログラム群学生受入

2011年10月より、学士課程で5プログラム、博士前期課程で5プログラム、博士後期課程で4プログラムを開設し、海外からの優秀な学生の受入を行っている。

【国際プログラム群2期生学生受入状況(2012年10月)】

学士課程 50名、博士前期課程 12名、博士後期課程 11名】

○英語プログラムの拡充

2014年10月より、文学部・文学研究科が新たにG30国際プログラム群に参画し、学士課程及び博士前期課程の学生の受入を決定。



【国際プログラム群の外国人教員と学生】



【インターンシップで企業担当者へ発表するG30学生】



【FD研修グループ別レクチャーの様子】

■ 留学生受入れ体制の充実

○留学生の利便性の向上

インターネットによる出願や、クレジットカードによる決済等での入学検定料の支払い等が可能となる「出願・入金・合否発表システム」を開発し運用を開始。教務・履修関係や学位規程、危機管理情報などの学内文書の英語化を推進するとともに、翻訳された文書をデータベース化した「名古屋大学学内情報翻訳データベース(NUTRIAD)」を開発し、他大学にも公開している。

○生活環境の充実

自己資金により、留学生宿舍を平成22年4月に新築(106室)、また平成23年9月に新築(93室)した。宿舍には、生活支援アドバイザーを配置し、留学生の日本文化理解等の支援を充実させている。

○就職支援の充実

平成23年8月にキャリア・デベロップメント専任の職員を配置した。平成24年度より、日本企業5社の若手人事担当者を招き、留学生及び日本人学生を対象に「企業が求める人材とは」などのパネルディスカッションを開催した。また、G30学生を対象とした国内企業へのインターンシップを実施した。

■ 他大学と連携したFD研修の実施

○FD研修の実施

本学、東北大学及び筑波大学と連携し、平成25年3月に米国オレゴン大学より英語教育の授業法に関する専門家4名を招聘し、英語授業に関わる教員に対しFD研修を開催した。研修には、8大学47名が参加し各種レクチャー、模擬授業及び授業評価を行った。

■ 海外大学共同利用事務所の活用

○情報発信

平成22年3月にウズベキスタンの首都タシケントに事務所を開設し、G30採択校を紹介するパネル展示を行い、各大学から提供のあった資料等を閲覧するスペースを設けるなど、情報発信を積極的に行っている。また、同事務所のテレビ会議システムは、他大学が実施する入試面接などにも活用されている。

○日本留学フェア等の開催

平成24年11月タシケントで、本学が主催する「日本留学フェア2012」を開催した。本学の他に東北大学・国際大学・筑波大学・早稲田大学・慶應義塾大学・三重大学・九州大学・立命館アジア太平洋大学(APU)が参加し、学生のほか教育関係者など約1200名の参加があり大盛況となった。また、現地の新聞・テレビで留学フェアの様子が報道され、日本の大学の情報発信にも繋がった。

また、ウズベキスタン事務所の周辺国であるカザフスタン(平成24年5月)及びキルギス(平成25年3月)においても、「大学説明会」を開催した。



【「日本留学フェア2012」ブース説明の様子】

【構想の概要】

京都大学の持つ世界最先端の独創的な研究資源を活かし、地球社会の現代的な課題に挑戦する次世代リーダー育成のための教育を行う。英語で授業を行う教育コースを、学部・大学院で開講し、アジア、アフリカ、欧米など、世界各地から優れた留学生を集め、日本人学生も加えて共に学ばせる。同時に、本学の海外ネットワークを活用し、日本人学生の海外体験を促進する。

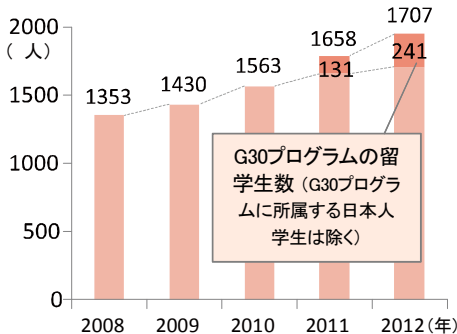
こうした取組を通じて、将来、世界のリーダーとして活躍できる国際的な人材を育てることを目指す。

■ 外国人留学生の受入の増加

本学の外国人留学生の総数は、2012年には5月1日現在で1700人を超え、順調に増え続けている。

中でもG30英語コース学生の増加が顕著である。プログラム当初より引き続き取り組んでいる、教育カリキュラムの充実、コース学生へのケア、留学フェアへの積極的な参加が、成果となって現れている。

外国人留学生の推移 (5月1日現在)



学生の声

アンワル ティヌンバン アウリア
フェビアンダ さん
(インドネシア)
工学部 地球工学科
国際コース 1回生

私にとって、京都大学の国際コースで学べる事は本当に素晴らしいチャンスです。

クラスは少人数のクラスで、先生も丁寧に教えて下さるのでとても分かりやすいですし、色々な国からの学生が集まっていて、これから色々な経験していくのがとても楽しみです。

■ 京都大学 - ベトナム国家大学ハノイ共同事務所(VKCO)の活動



▲ ベトナムの高校訪問の様子

ベトナムにおける留学生獲得のための広報活動(説明会・高校訪問/セミナーの開催)

2012年11月にダナン大学でG30採択大学などに参加を呼び掛け、留学説明会を行った。同時期にハノイ、ホーチミン、ダナン、フエで高校訪問も行い、ベトナムの優秀な学生の獲得に努めた。また、VKCO設立2周年となる9月にハノイ国家大学でベトナムの教育機関との関係強化を図る取組として日本教育セミナーを行った。

日本の大学のベトナム人学生募集活動支援

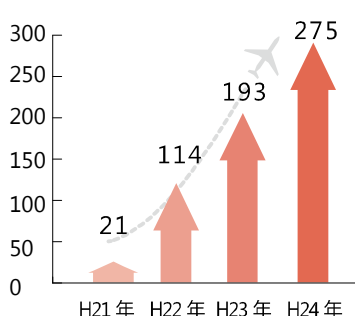
日本の大学のベトナム人留学生の募集活動支援として、遠隔システムを利用した面接、現地での面接や入試のサポートなどを行い、優秀なベトナム人学生獲得に貢献している。

■ 日本人学生の英語力強化のための取組

日本人学生の実用的英語力向上のため、「英語によるプレゼンテーション」「グローバルキャリアディベロップメント」「海外留学に必要な英語運用能力」などの講義を開設した。学内のみならず、学外からの講師を招き、産業界との連携も進めている。

また、本学では海外留学促進の一環として多様なニーズに合わせた、3ヶ月未満の各種短期留学プログラムを企画、実施している。平成24年度には275名の学生がこれらのプログラムを利用し、海外留学している。

短期派遣学生数 (5月1日現在)



学生の声

大庭 脩平 さん
経済学部 2回生

私は春のオーストラリア研修プログラムで3週間、グループ留学のリーダーとしてシドニー大学に通いました。

本プログラムで、在米経験があるとはいえ、本格的な長期留学の前に海外の授業を実際に体験し、実際の留学にイメージをわかせるのに大いに役立ちました。また、留学入門的な位置づけのため、日本での半期の準備講座もあり、グループ留学のため、海外経験の全くない人にも参加しやすいプログラムだったと思います。

■ 今後の国際化に向けての動き

G30の最終年度に向けての全学ヒアリングの実施

国際担当理事と学生担当理事によるG30の最終年度に向けての部局ヒアリングを実施した。ヒアリングではG30による英語コース実施部局から英語コース実施についてのポジティブな評価、また留学生・外国人研究者の招致、日本人学生の国際化についての様々な要望事項を聞くことができた。この結果をもとに平成25年度に新しい京都大学の国際戦略を策定する方針である。

国際高等教育院の設置と学部等のグローバル化の推進

文部科学省の平成24年度国立大学強化推進事業において、本学が提案した「グローバル化に対応した教学マネジメントのための組織改革」が選定された。これは「大学教育の国際化のため、世界の大学や外国人研究者との強固なコネクションを活かし、100人規模の外国人教員を新規採用、教養科目の半分以上を英語で講義する事を目指し、グローバル化に対応した教学マネジメントを実現」しようとするものである。これに伴い、平成25年4月に「国際高等教育院」が設置された。この国際高等教育院では、全学の学部教養教育を主体的に執り行い、上記の英語授業を実施し、学部学生のグローバル化の一端を担っていく予定である。これまでのG30の経験を活かしつつ、一層の国際化と新しい教学モデルを提案できるものと期待される。

【構想の概要】

優秀な留学生の獲得のために海外で積極的に広報を進め、学生にとって魅力ある教育プログラムを運営するとともに、来日前後ならび滞在中の生活、さらに学習および就職に向けての支援を充実させていく。また、ネットワークを構築した大学との間で、大学の国際化に向けた様々な活動を実施し、産業界とも相互の連携を深めるべく事業を実施する。これらの取り組みを通して、本事業の目的である日本の国際化拠点大学としての役割を果たしていく。

■英語コースの継続実施とカリキュラムの充実

全4つの英語コースが活発な募集活動を展開し、在学生の出身国は日本を含め、東アジア、東南アジア諸国を中心に21あまりの国・地域にわたり、より多様化した。また、カリキュラムやシラバスの改善に努め、教育の質の保証に向けた取り組みを一層進めている。

●英語コースで学ぶ学生の声

「このコースは選択の幅が広く、自分が興味のある分野の知識をいろいろ吸収できるのが面白いです。また英語と日本語が同時に勉強できるのも魅力です。日本にいながら国際的な人間関係を築けるのがとてもいいです。」

(人間科学コース 男子学生 アメリカ合衆国)



批判的思考法を学ぶ授業



カニの解剖実習

「このコースでは、化学生物を始めとした幅広い理系の専門科目を、世界各国から集まった学生と共に意見交換をしながら考え、学ぶことができます。授業は少人数で、生徒と教授の距離が近く、主にディスカッションを通して専門知識を深めることができます。また、グループに分かれて理学部、工学部、基礎工学部の研究室で実験や授業が受けられるクラスもあり、各分野の最先端研究に一年次から触れることができるのも、このコースの魅力です。」

(化学・生物学複合メジャーコース 女子学生 日本)

■ネットワーク活動の活発な展開と産業界との連携

平成23年度に結成された「阪神地区大学国際化推進ネットワーク(大阪大学・神戸大学・関西大学・関西学院大学)」は、平成24年度も共同で諸事業を実施した。11月には、JASSO主催日本留学説明会(ベトナム)のハノイ、ホーチミン両会場で開催し、大学の広報とともに阪神地区の魅力や来場者にアピールした。

平成25年2月に日韓学生会議を開催、加盟4大学と韓国の慶熙大学、漢陽大学の学生が両国間の諸課題について、ワークショップ等を行った。



留学生の採用を考える企業との交流会

平成25年3月に国際業務担当職員を対象に大学の国際化に向けてのスタッフ・ディベロップメントを実施した。

また、産業界との連携として、平成25年2月に同ネット共催で「留学生の採用を考える企業との交流会」を開催し、グローバル展開を指向する企業5社と大阪大学や他大学の留学生が相互理解を深める場を提供した。留学生が日本企業への就職を考えるにあたり、企業慣行等を知ることで意識の差を解消するべく、企業担当者から現場の第一線の話がうかがった。会には関西経済連合会ならびに近畿経済産業局からも担当者が参加した。

■大阪大学G30シンポジウムの開催

平成25年3月に「大阪大学G30シンポジウム」を開催した。G30採択大学以外も合わせ16大学、マスコミならびに教育関連団体から参加者があった。日本の大学の学部段階における英語学位プログラムの在り方及び国際バカロレア関係者と大学関係者が討議するこれまでになかった視点からのプログラムを組み、周辺諸課題について関係者間の啓発に寄与するとともに学内でのG30事業広報にもつながった。



G30シンポジウム

【構想の概要】

アジアを中心に8か国・地域(中国・韓国・台湾・ベトナム・タイ・インドネシア・エジプト・オーストラリア)を受入重点国として設定し、「アジア重視戦略」を展開。留学生の入口から出口までの一貫した国際化拠点整備を行い、世界に開かれた教育研究環境を構築する。グローバル30の成果の上に、平成32年度までに、全学横断的に英語による教養教育を行う「国際教養学部(仮称)」を創設し、アジアを代表する世界的研究・教育拠点大学を目指す。

■ 国際(英語)コースの開講

平成22年10月に開設した学士課程国際コース(工学部・農学部)の第三期生として平成24年度は13人の留学生が入学した。また、大学院(学府)では、統合新領域学府で1コース(博士課程)を開設し、当初予定していた、全57コースの開設を完了した。平成24年10月現在、学士課程国際コースに55人、大学院国際コースに449人の学生が在籍している。



〈2012年度学士課程国際コース入学式〉

■ 海外リクルート活動の展開

学士課程国際コースを中心とした学生リクルートのため、平成24年度は、受入重点国等16か国・地域の50以上の高校等でプロモーション活動を実施するとともに、日本学生支援機構や本事業推進事務局、福岡県留学生サポートセンター等が主催する海外での留学フェアに積極的に参加した。



〈工学部の授業風景〉

■ 留学生等受入れ体制の充実

○ 「サポートセンター」におけるワンストップサービスの提供

留学生・外国人教員へのワンストップサービスを行う「外国人留学生・研究者サポートセンター」を各キャンパス(7か所)に設置。計16人のスタッフが、ビザ手続、空港出迎え、住居紹介などの修学・生活支援サービスを提供。

○ 奨学金等の充実

学士課程国際コース生を対象に、大学独自の奨学金(月額7万円)、授業料半額免除、渡日旅費、宿舍の優先斡旋の支援を実施。

■ 九州・山口地域の大学国際化ワークショップ

大学の国際化に関する連携協力及び情報共有のためのワークショップを平成24年度に3回開催した。九州・山口地域の大学等から毎回50名程度の参加があり、海外プロモーション戦略や危機管理等をテーマとして、活発な議論を行った。

■ 海外大学共同利用事務所(カイロオフィス)の活動

カイロオフィス(海外大学共同利用事務所)では、優秀な留学生の獲得に取り組んでいる。平成24年11月には、エジプトのカイロ及びアレキサンドリアにおいて、同国初となる大規模な「日本留学フェア」を開催し、参加者総数は1,885名に上った。その後、日本への留学希望者の問合せ数が増加し、平成25年度本学学士課程国際コースには、エジプトから6名の志願者があった。



〈エジプトにおける日本留学フェア2012〉

■ 国際化学生委員会による大学国際化トーク・フォーラム

早稲田大学国際コミュニティセンターの協力の下、学生視点による大学の国際化に関する意見交換及び学生間のネットワーク構築を目的として、国際化学生委員会主導による「大学国際化トーク・フォーラム」を実施した。本学を含む7大学から40人の学生が参加した。



〈パネルディスカッション〉

■ 学士課程国際コース グローバル30プロジェクト終了後の運営

平成25年度の事業終了後、学士課程国際コースをどのように運営していくかについて、学内タスクフォースを立ち上げ、「学士課程国際コースグローバル30プロジェクト終了後の運営に係る提案書」をまとめた。提案書の内容は、大学国際化の議論に資するため学内外において共有するとともに、本学では、これを基にコース運営の具体策を検討している。

【構想の概要】

大学全体の国際化を推進するために、①英語で学位取得可能な学部・研究科のコースや、ダブル・ディグリーなどの国際的教育プログラムの新設・拡充②学内の国際化基盤整備③優秀な留学生獲得のための国際広報、を全学および各部門において推進した。

■国際的教育プログラムの新設・拡充

【英語で学位取得可能なプログラム】

平成23年度までに以下のプログラムが完成しており、平成24年度も引き続き進められた。

平成21年度: Sciences Po-Keio Double Masters Degree in Economics Programme (経済学研究科)

※平成24年度より、経済学部においてもSciences Poとのダブル・ディグリー・プログラムを開始

平成22年度: System Design and Management Course(システムデザイン・マネジメント研究科)

平成23年度: GIGA(Global Information and Communication Technology and Governance Academic)プログラム(環境情報学部)
※この他、4つの英語による学位取得可能なコースを設置
(CEMS受入留学生)

【ダブル・ディグリー・プログラムの拡充】

・理工学研究科とスウェーデン王立工科大学(スウェーデン)、ミュンヘン工科大学(ドイツ)、ミラノ工科大学(イタリア)とのプログラムを実施した。

・本学のCEMS加盟により、経済学研究科、商学研究科、メディアデザイン研究科では本学の学位に加え、国際経営学修士の学位(CEMS MIM)を取得できるプログラムを開始した。平成24年度からCEMS加盟校との学生交換が始まり、春学期11人、秋学期4人の留学生(デンマーク、ハンガリー、スペイン、ロシア、フランス、ポルトガル、オランダ、スウェーデン、アイルランド、ドイツ、スイス、ポーランド、カナダ、オーストラリア、中国の加盟大学から各1名)を受入れるとともに、秋学期は1人の学生をシンガポールに派遣した。

【慶應義塾大学短期日本学講座(KJSP)の新設】

平成24年度に「慶應義塾大学短期日本学講座(KJSP)」を新設した。

本プログラムは留学生と塾生が寝食を共にしながら学び合う交流型短期留学生受入れプログラムである。平成25年1月30日～2月13日に実施し、参加学生は、本学の協定校からの外国人留学生(14ヶ国・地域)23名、本学の日本人学生10名であった。プログラムは、基本、午前午後と2コマの講義を受け、その後講義と関連したアクティビティを組み合わせ実施した。

【英語による授業の拡充】

現在英語による授業(語学を除く)が180以上あり、毎年拡充を進めている。特に、本事業による英語コースを開設している経済学研究科では、毎年、G30科目オムニバス講座「Lecture Series on European and Asian Economics」を開講しており、留学生と日本人が共に英語で学ぶ環境が用意されている。

■学内の国際化基盤整備

【国際業務に対応し得る職員の養成】

国際業務に対応し得る職員を養成するため、OJTとして世界各地で実施される留学フェア等に学内の関係部門から職員を派遣した。また、日常的に英語を使用する頻度の高い職員を対象に本学の業務を考慮しカスタマイズした、英語の研修等を実施した。

【学内文書の英語化の推進】

翻訳した日英文書を管理するデータベースTradosを導入した。平成23年度に「学内文書英語化プロジェクト」が立ち上げられ、各部署で必要な文書等の英文化を推進する体制を強化、平成24年度も引き続き、実施した。

■国際広報

【動画の作成、活用】

外国人の目を意識した広報として、動画「Shaping History, Shaping Tomorrow」を作成し、活用した。

【海外での日本留学フェアへの参加】

海外で行われる日本留学フェアに積極的に参加したほか、平成23年度に引き続き、英国・ロンドンにて、本学主催、ブリティッシュ・カウンシル共催でフェアを開催。英国で行われたこの種のイベントとしては過去最大規模で開催され、約500名の参加があった。

【Keio Globalの運用】

ウェブサイト、データベース、Facebookによる複合的コミュニケーションサイト「Keio Global」を運用した。
①ウェブサイトは約160ヶ国・地域からのアクセス。訪問者数は約40,000人。
②Facebookは約1,000の「いいね！」
③データベースは約30ヶ国約230名が登録。

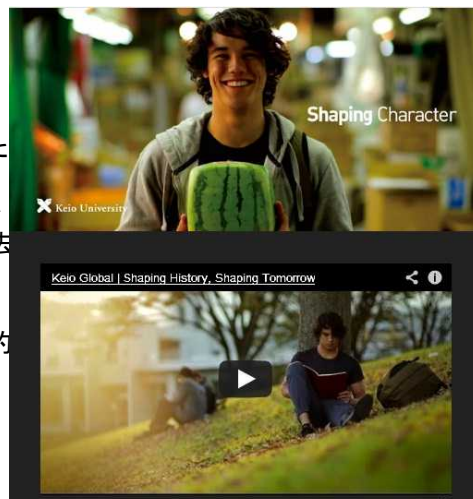


〈KJSPの実施の様子〉



動画「Shaping History, Shaping Tomorrow」

〈ロンドンにおける留学フェアの様子〉



www.global.keio.ac.jp



【構想の概要】

国際教育のパイオニア的存在として既存の英語によるプログラムや充実した交換留学制度に加え、環境理工学の分野で英語による学位プログラムを新たに提供することで、海外から質の高い学生を数多く受け入れ、日本人学生・留学生が共に切磋琢磨する環境をさらに発展させ、今日の国際社会で活躍できる人材を育成する。また、300名以上の留学生を収容できる宿舎を整備するとともに、奨学金、就職支援の充実など、留学生受入環境を拡充する。さらに、国内外の高等教育機関とのネットワーク構築を推進し、海外プログラムの拡充と多様化を進める。

■ 理工学部英語コースの新設

2012年秋学期に理工学部に「グリーンサイエンスコース」と「グリーンエンジニアリングコース」を開設し5名の学生が入学。前者は物理学、化学、生物科学の領域で環境問題に取り組み、後者は物理学、電気工学、機械工学の融合による複合知を駆使して環境技術を研究・開発するコース。

2013年秋学期には、同コースの大学院プログラムである理工学研究科グリーンサイエンス／グリーンエンジニアリング領域を開設。

<http://www.st.sophia.ac.jp/english/about-us/iup.html>



理工学部英語コース
オリエンテーションキャンプ
(2012年9月)

■ 言語教育研究センターの開設

全学の言語教育の抜本的改革と充実を図るために、2012年4月に開設された。アカデミック・コミュニケーション能力の育成を目指して、外国語及び日本語教育プログラムを開発し、実施している。



留学生向けの取り組み

- ・日本語教育カリキュラムの拡充
- ・チューター等によるサポート
- ・留学生や日本人学生が自由にコミュニケーションできるインターナショナル・ラウンジを設置

言語教育研究センター
による授業風景

■ 海外協定校の拡大【2012年度:40カ国185校】

新たに7校と新規協定を締結し、協定校からの交換留学生は**276名**(前年度比**+71%**)となり、東日本大震災の影響を受けた2011年度から大幅に回復した。全体の受入留学生数は、**1,328名**(前年度比**+27%**)となった。日本語・日本事情に関するオンデマンドの短期プログラムも開講するなどして、受入重点国の中国等からの留学生が増加した。

中国学生向けウィンターセッション(2012年1月) 参加学生の声

- ・今回のプログラム参加によって、日本留学の価値とおもしろさが分かりました。
- ・授業の内容や、先生の授業スタイルがわかりやすかったです。
- ・海外留学の思いがさらに固まりました。
- ・このプログラムをきっかけに、勉強はグローバルな考えが必要だと深く感じました。

派遣交換留学生は、**250名**(前年度比**+15%**)となり、一般留学、短期留学を合わせた派遣留学生数は**692名**であった(前年度比**+12%**)。

■ ルクセンブルクオフィスの開設

交換留学協定校であるルクセンブルク大学に拠点を開設(2012年9月)。高い教育水準と国際性を持ち、地理的にも欧州の中心部に位置するルクセンブルクで、現地と周辺国の学生への日本留学に関する各種広報・募集活動の展開を行う。



ルクセンブルク大学

■ 上智大学祖師谷国際交流会館の運用開始

全362室あり、海外からの教員・研究者のために家族寮も設置。居住者の生活サポート、会館運営支援を行うハウス・アシスタントを配置し、留学生のサポート体制を整えている。今後は、祖師谷キャンパスとして教育活動の場としての活用が見込まれる。



祖師谷国際交流会館
外観

新入生
ウェルカムパーティ
(2012年10月)



■ 英語によるプログラム実施のためのセミナー

大学教育における授業の英語化について議論するシンポジウム『英語で専門科目を教える』を考える—CLIL(内容言語統合型学習)理論の活用と可能性』を開催(2012年9月)。37の関連機関から120名を超える参加があり、英語で専門科目を教えるための指導法や英語教育のあり方について、事例発表と建設的な意見交換を行った。



2012年9月CLILシンポジウム

■ G5(グローバル5大学)交流協定による連携

国際教養大学、国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学とグローバル5大学交流協定を締結し、合同進学相談会やSDプログラム(「グローバル化と多様性～G5大学の事例をとらえて」と題した研修)を実施した。

【構想の概要】

(財)アジア学生文化協会(ABK)、(株)JTB法人東京、(株)ベネッセコーポレーションと国際教育パートナーズを結成。JTB海外支店を活用した大学情報の発信、ベネッセと連携した汎用性のあるWeb出願システムの開発、ABKと連携した日本語教育の実施など、それぞれのノウハウを活かし、留学生の海外募集→入学→就職までのトータル・ソリューション・モデルの確立を目指す。

■ 海外協定校の拡大

平成25年4月末現在、学術交流協定を締結している大学・機関は214校。うち148校と学生交流に関する覚書を締結。平成24年度は、新規対象国3か国(ベルギー・リトアニア・アルゼンチン)の大学を含む、17カ国の32大学と新たに締結し、多様化と拡大が図られている。

■ グローバル人材育成シンポジウムの開催(バンコク)

平成23年度明治大学キャンパスにて開催した産学連携グローバル人材育成シンポジウムに引き続き、タイ・バンコクにおいて第2回シンポジウム「グローバル人材育成に向けて-企業と大学の協働-」(H25.1)を開催。三菱電機、パナソニック人事担当者を招き、留学生などの採用につき議論。



グローバル人材シンポジウム バンコク会場(左)と講演会の様子(右)

■ 英語コース開設と留学生数の増加

大学全体の留学生数は、平成24年度1,168名。

○ガバナンス研究科ガバナンス専攻公共政策プログラム英語コース 平成24年度留学生36名在籍。

○経営学研究科経営学専攻ダブルディグリープログラム英語コース 平成24年度留学生8名在籍。

○国際日本学部イングリッシュトラック 平成23年度開設。Web出願をスタート。平成24年度24名在籍。

○理工学研究科建築学専攻建築・都市デザイン国際プロフェSSIONALコース 平成25年4月中野キャンパスにて開設。留学生5名在籍。

■ 短期プログラム(受入・派遣)の実施

○留学生受入プログラム

海外の学生が、長期休暇を利用し、日本語、日本の法律、政治経済、ポップカルチャーなどを体験学習と講義を組み合わせたカリキュラムにより学ぶことができる短期留学生受入プログラムを実施。〈英語によるプログラム: Cool Japan Summer Program, Law in Japan Program, 日本語によるプログラム: 夏期短期社会科学プログラム, 夏期・冬期日本語短期研修プログラム〉

○協定校との学生交流プログラム

各学部・研究科独自のプログラム数の拡大により、交流学生数は増加。平成24年度はSSSVプログラムに22プログラムが採択される。商学部: ラテンアメリカ異文化交流プログラム・日韓ランゲージエクステンション・パートナーシップ構築プログラム・ファッションビジネスプログラム・都市文化調査日中共同プログラム、政経学部: 南カリフォルニア大学受入プログラム・ノースイースタン大学短期留学プログラム・シーナカリンウィロート大学プログラム、理工学部: 建築チュラロンコン大学プログラム・韓国国立慶尚大学による理工学合同シンポジウムと企業見学、オレゴン大学共同建築・都市デザインワークショップ、情報コミュニケーション学部: タイ短期学生交流プログラム、等。



○日本とカナダにおける大学間連携コンソーシアム

日加戦略的留学生交流促進プログラムとして、日本側12大学、カナダ側10大学による学生交換プログラムを実施。平成24年度は、コンソーシアム間の交換留学を再開させカナダ側から学生を受入れた。2013年2月には、カナダ・トロントにて「日加学術フォーラム」を開催し、日・加合計28名の学生が参加した。

日加学術フォーラムにおけるプレゼンテーションの様子(ヨーク大・トロント)

■ 留学生受入促進のための体制の強化

○留学生相談体制の充実

留学生相談については、国際交流ラウンジを活用し、国際連携機構特任教員が4つの各キャンパス(駿河台・和泉・生田・中野)を巡回する形により行う体制を整備した。英語で対応ができる臨床心理士も駿河台と中野キャンパスに配置、心理的な相談をはじめ、生活・学修・進路等あらゆる事項にも対応している。

○留学生奨学金制度の改訂・整備

奨学金・授業料減免について、従前の一律による30%減免を改め、傾斜型による学生のインセンティブを高める方式に変更(平成25年度から)した。また、給付型奨学金についても、入試と連動した戦略性の高い制度等の具体的な導入を進めている。

○留学促進共同プラットフォームの整備

留学生の海外から出願の利便性を考慮したWeb出願システムを運用し、国際日本学部及び理工学研究科の英語コース入試における登録、受験料決済及び出願処理に利用している。広範な情報を提供する日本留学ポータルサイト(JPSS)と連動させ有効性を高めている。

○日本語教育センターによる体系的な日本語教育の実施

協定校からの交換留学生や国費留学生等の修学効果向上を図るための「日本語集中プログラム」を正規科目として開講(平成23年度から)。また、国際教育パートナーズの(財)アジア学生文化協会と連携し、補習日本語を実施。

■ タイ・バンコクに明治大学アセアンセンターを開設

政治経済学部及び情報コミュニケーション学部をはじめとして学生交流を重ねてきたタイの協定校、シーナカリンウィロート大学キャンパス内に明治大学アセアンセンターを開設、平成25年5月から運用を開始した。JTB海外共同利用事務所による中国・北京サテライトオフィス(H23.4より運用)に続き、大学の世界展開力強化事業におけるASEAN諸国コンソーシアム大学との交流拠点となる。



明治大学アセアンセンター内、エントランス及びラウンジ

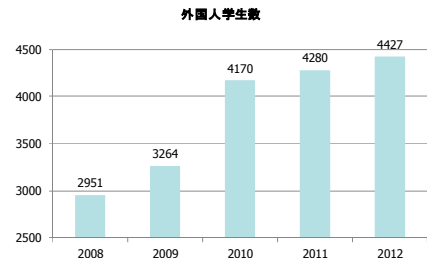
【構想の概要】

“受入れ外国人学生(留学生)数10,000人”、“日本人学生も在学中に一度は留学”、“外国人教員20%”の実現を到達目標とする。教育内容としては、地球の至るところで異文化社会に溶け込み、地域に存在する様々な問題を解決するために行動し、その社会や日本、ひいては人類社会全体に貢献できる人材の育成を目指す。

■ 外国人学生の受入及び派遣実績

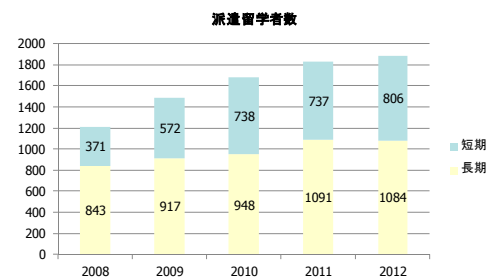
○外国人学生受入

本学は、外国人学生の受け入れを積極的に進め、特に過去5年間は、47%増加という高い伸びを示した。2011年度については、東北大震災の影響で伸びが鈍ったが、2012年度については、4,427となり再び増加に転じた。



○日本人学生派遣

日本人学生の内向き志向が指摘される中、本学の学生を対象にした意識調査では、82%の学生が学生時代に何らかの海外経験を積むことを希望している。それらの学生の意識と、近年の大学側の留学の環境整備の効果により、留学した学生数は、2008年度比で57%増加した。本学はH24年度に「グローバル人材育成推進事業」に採択され、今後も海外へ留学する学生が増加していくことが予想される。



■ 海外大学との連携プログラムの新たな実施

○教育の国際化

「グローバルオナーズカレッジ」「ダブルディグリープログラム」「Global College - Asian Business Studies」等のプログラムを通して世界のトップ大学の学生と本学の学生が共に学ぶ機会を充実させた。



「グローバルオナーズカレッジ」プログラム

○研究の国際化

高雄医学大学(台湾)、大連理工大学共同育成プログラム(ソフトウェア分野)との共同研究の実施し、また北京大学環境理工学院と「環境・持続可能発展学」分野における共同大学院を設置した。

■ 教育体制の充実

○授業の質の向上(ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施)

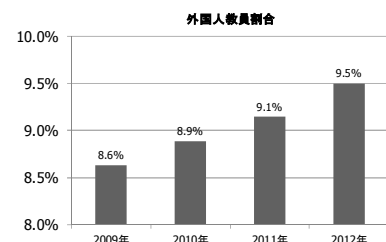
本学は2008年度より米国内協定校での研修を実施している。米国協定校に2~3週間派遣し、教授法ワークショップ、英語によるプレゼンテーションスキル講座、授業見学、模擬授業などの研修を実施している。過去5年間で54名の教員が参加した。更に、2012年度については海外から講師を招き、本学の新任教員等を対象に1dayFDプログラム(46名参加)を実施した。



ファカルティ・ディベロップメント研修

○外国人教員・国際経験のある日本人教員の雇用

本学では、多様な学問・文化・言語・精神が交流するグローバルな教育研究拠点を形成するため、外国人教員の採用を積極的に行っている。近年、新規採用における外国人教員の割合は12%程度であり、それに伴って全体に対する外国人教員の割合も着実に増えている。同様に、国際経験のある日本人教員(国外の大学での学位取得、通算1年以上国外で教育研究に従事した教員)の割合も増えている。



■ 海外大学共同利用事務所 (ボン ヨーロッパセンター)

本学が担当するドイツ・ボンのヨーロッパセンターは、本学の研究・教育支援施設として1999年に設立された。設立当初より、常勤職員をおき、本学とドイツやその他周辺国との教育・研究交流を支援している。

○現地における国内大学に関する広報活動

ドイツ国内およびその近隣国の大学が開催する留学フェアに5回参加し、日本の大学についての情報を提供してきた。また、2013年1月にベルリンにて本学主催の”Study Japan! Fair”を開催し、200名以上の来場者数があった。

○ワンストップサービス等の提供

事務所の機能拡充に努め、事務所内に外部に提供できる会議スペースを確保したほか、G30プログラムや日本の大学についての情報を収集し、日本への留学希望者に提供できる体制を整えた。またテレビ会議システムを用いての遠隔会議や面接などにも対応できる環境整備を行った。



海外大学共同利用事務所(ボン)

【構想の概要】

本事業を通して、本学の教育理念の一つである「国際主義」の更なる現代的実質化を図り、global issuesの解明・解決に貢献する国際的教育研究拠点へと発展させることを目指す。具体的には、英語のみで学位が取得できるコースを開設する等、ソフト・ハード両面での大学のグローバル化を推し進める。

■ 留学生受入れ体制の充実

○授業料減免奨学金

全留学生に対し奨学金を給付。授業料の減免率は学部20～50%、大学院が30～100%。

○アドバイザー、チューターによる支援

「生活支援アドバイザー制度」「学習・研究支援チューター制度」により、留学生が抱える個々の学習・生活両面での問題・悩みへの対応および修士論文作成時のサポートを行う。

○グローバルな環境整備

学内表示の多言語化の他、学生食堂においてはハラル食を提供、また学内にメディテーションルーム等を整備し、多様な文化圏からの留学生の生活環境を向上させた。またソフト面においても、「World Café」等、複数の国際交流イベントを新しく企画し、留学生と日本人学生の交流を促進している。

○英語カウンセリング

平成23年度より今出川キャンパスにおいて英語によるカウンセリングを開始し、平成24年度には京田辺キャンパスにも拡張し留学生の精神的な支援にあたっている。

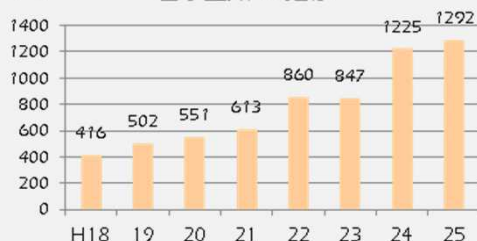
○宿舎／留学生住宅総合補償制度

平成24年度末現在502室(699名収容)の宿舎を確保し、本事業当初と比較し5倍強となった。また、平成23年度に導入した「留学生住宅総合補償制度」は平成24年度にも約100名の留学生が利用し順調に稼働している。

○就職支援

「ビジネス日本語」等の各種講座・セミナーを継続して実施するとともに、平成24年度には留学生を積極採用する企業を招聘し「企業研究セミナー」を開催。また、卒業前の留学生を対象に就職に対する意識調査を実施し、今後の「ニーズに沿った就職支援」に向けて分析を行い報告書を作成した。

(名) 留学生数*の推移



*留学生数には、本学の外国人留学生定義による留学生、グローバルMBAコースに在籍する留学生、一般入試を経て入学した留学生を含む。



▲ 授業風景(ラーニング・commons内)



▲ 日本留学フェア(トルコ)の様子(於:旧日本総領事館)

■ 海外に向けたリクルーティング・広報活動

○海外事務所開設／留学フェア開催

既存の3拠点6事務所に加え、平成24年度トルコ(イスタンブール)に事務所を開設。また同年度内にイスタンブールにおいてG30日本留学フェアを主催し、約230名の現地参加者を得た。

○リクルーティング／広報活動

継続的に各種留学フェアに参加する他、平成24年度は英語コース教職員による「Japan Day」をオーストラリア・UAE・イギリスにて開催。また、新たにFacebookを開設し国内外に情報発信を行っている。

■ 国内外の教育機関との連携

○SDワークショップ等の開催

平成24年11月SDワークショップ「大学職員のグローバル化」、平成25年1月国際シンポジウム「国際化時代の日本語研究と日本語教育」を開催し、国内外の大学関係者での情報共有を図った。

○海外大学との連携促進

平成24年度には新たに3カ国10大学と大学間協定を締結し、年度末時点で合計39カ国167大学となった。

ILAでのグループ学習を通して、色々な国から来ている学生との相互理解を深めています。それぞれの国の知識や経験を持ち寄ることで、日本に対する理解が広がるのではないかと思います。また、私達を隔てる要因よりも、人間の「1つの家族」としての繋がりの方が勝るのだと実感しています。授業では、時にはフィールドワークで教室の外に飛び出し、緑豊かな古都を満喫しています。

国際教育インスティテュート学生(ウガンダ出身)



■ 英語コースの開講

○学部

[H23.4] 国際教育インスティテュート<ILA>

○大学院

[H21.9] グローバルMBAコース(ビジネス研究科)

[H22.4] グローバル・スタディーズ研究科

[H22.9] 国際科学技術コース<ISTC>

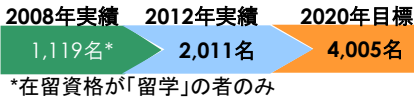
(理工学研究科・生命医科学研究科)

【構想の概要】

立命館大学はグローバル人材の育成を目指して、真の国際大学であるAPU(立命館アジア太平洋大学)での経験と実績を最大限活かし、産業界と連携しつつ、立命館大学を4,000人超の留学生を受け入れる国際化拠点として展開することにより、「留学生30万人計画」の達成に向けた牽引役を果たす。また日本人学生に対しても、留学生と共に切磋琢磨する中で、あるいは海外留学を通じて国際社会で活躍できる人材の育成に貢献する。

■ 留学生受入れ体制の充実

留学生受入れ人数



ピア・サポート

日本人学生と留学生の混成グループが学部英語コースで学ぶ留学生を支援。

日本人学生だけだった時と違い、交流企画にしても、実のある企画にして、説明をしないと参加してくれない。主旨をきちんと説明することの大切さを学びました。



国際関係学部 3回生

留学生への情報提供機能の充実

学内文章の英語化の推進、英語版HPの充実、英語によるカウンセリングの実施。

国際宿泊施設の整備・奨学金の拡充

「国際宿舎の整備」
2012年9月にびわこ・くさつキャンパスに160室の国際教育寮を新設。衣笠キャンパスでも計画進行中。

「留学生奨学金の拡充」

- ・合格と同時に渡日前に奨学金を決定する入試制度の実施。
- ・学費減免率100%も視野に入れた新たな制度の具体化。



留学生のキャリア支援・就職支援

「グローバル人材養成プログラム」の実施

日本人学生と留学生が、グループでの学び合いを通じて、国内外を問わずグローバルに活躍できる人材を養成するプログラム。PBLプログラムや海外でのインターンシップなどを実施。

短期受入プログラム

2010年度より、5週間プログラムに加えニーズの高い2週間プログラムを開発。2011年度からは協定大学等の要望に応じたカスタムメイドプログラムも実施。

■ 英語コースの開講

英語コースの名称		学部・研究科名	開設年月
学部	Global Studies Major	国際関係学部	2011年4月
	Community and Regional Policy Studies Major	政策科学部	2013年9月
大学院	Doctoral Program in Technology Management	テクノロジー・マネジメント研究科	2010年9月
	Doctoral Program in Policy Science	政策科学研究科	2011年9月

英語コース科目の開放

2012年度より3科目を大学コンソーシアム京都を通じて他大学の学生も受講できるよう開放している。

国際関係学部グローバル・スタディーズ(GS)専攻

1学年60名(国内学生30名+留学生30名) 春入学と秋入学を両方実施。



【GS専攻 鈴木 亮さん(日本)】

GS専攻での学びというのは2つあって、1つは文化的な面で、留学生と交流する上で日本にはない感覚や他の国の文化を学べるということです。もう1つは、常に英語に触れられ、英語を主体的に扱うというのが魅力的な点です。

GS専攻では文化の違いを受け入れることを学ばなければなりません。意見を積極的に言わない人たちは、ただ無口だというわけではなく多文化を尊重し他人の意見を敬うが故に考えを控えようとするのだと思います。僕にとっての一番大きな変化は、文化の多様性を受け入れ始めていることだと思います。

【GS専攻 Leung King Yat Chrisさん(香港)】



■ 日本人学生の海外派遣の促進

2009年度より長期の海外留学参加を実現するための支援プログラムとして、「グローバル・ゲートウェイプログラム」を実施。入学から卒業までの留学に関わるプロセスを支援。本プログラムを通じ、これまでに176名の学生がDUDPや交換留学等のアドバンス型の留学をしている。

海外派遣者数



海外大学との交流協定等の拡大

2012年度には新たに7大学と協力協定を締結。2013年3月31日現在、61か国・地域で406大学・機関と協定を締結している。

■ 海外大学共同利用事務所の活動(インド・ニューデリー)

2010年11月開所。日本の大学に関する情報発信、テレビ会議システムを活用した大学説明会、および入学審査時の面接実施等の支援を行っている。2011年度に引き続き、2012年8月に日本留学説明会を開催し、約570名が参加した。日本の大学のみならず、日本の政府機関や地方自治体およびインド国内の教育機関との連携を強め、日印のさらなるネットワーク構築に努めている。

